

人権作文

昨年度の阿蘇市人権作文集『かけはし』の作品の中から一部を紹介し、皆さんもぜひ、家族や身近な人との関係を見つめ直し、人権や差別について話し合う機会を持ちましょう。

キウイ

阿蘇西小学校 4年(現5年)

後藤 立

「キウイを買ってきたよ。」とお母さんが言いました。

「食べたい。」とはるねが言いました。

お母さんがキウイを切り始めたとき、ぼくが、

「切りたい。」と言いました。

今まで何回かお母さんの料理を手伝ったことはありました。そのときは野菜を切りました。キウイを切るのは初めてでした。

切り始めると思ったよりかんたんに切れました。でも、と中で包丁で手を切りそうになって、ドキッとしました。切り終わったら、お皿にのせてみんなに出してあげました。みんな、

「おいしい。でもちよつとすっぱい。」と言ってくれました。はるねも少し

すっぱそうな顔をしていました。みんなが喜んでくれたからとてもうれしかったです。キウイを切るのはけっこう楽しかったです。

ぼくのお父さんは料理をする仕事をしています。何度かお父さんの仕事場に行ったことがあります。でも、包丁を使っているのを見たことはありません。

前にお父さんといっしょに、家ですしを作りました。ぼくはうまくできなかつたけれど、お父さんは真剣な顔をして、すばやくすしをにぎっていました。たぶんお父さんも、みんなが喜んでくれるからいっしょうけん命料理を作るんだらうと思います。ぼくも、いつかお父さんみたいに、魚をさばいたり、すしをにぎったりしてみたいです。

平成二十一年度

阿蘇市人権作文集「かけはし」より

ALT (英語指導助手) 活動日誌

虹色の国

南アフリカ



阿蘇の小・中学校では夏休みも終わり2学期が始まりました。私は日本に来て3度目の夏を阿蘇で過ごし、日本の伝統的な慣習である「お盆」について学びました。

私の母国である南アフリカ共和国にも全ての国民にとって特別な日があります。それは毎年9月24日の「遺産の日」と呼ばれる日です。南アフリカの人々は、同じ国の中に宗教や文化、皮膚の色などが異なる多様な人々が共存していることから、自分の母国のことを『虹色の国』と表現します。この「遺産の日」

には、私たちの文化的な遺産や、異なる信条・伝統の多様性を賛美し、彼らが南アフリカ共和国民(虹色の国の民)であることを再度認識するのです。

私は、日本の皆さんとも同じように「遺産の日」を祝いたいです。私たちがどこの国の出身で、どんな宗教を信仰し、どんな文化を持とうとも同じ人間なのだから。私は私の「遺産」を皆さんと共有したいです。



阿蘇北中学校ALT  
モハメド・ジャミール フーセン